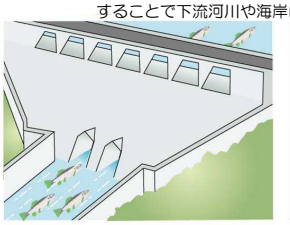
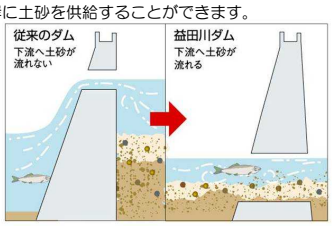
益田川治水ダム建設事業
平成１８年度 ダム工学会賞「技術賞」受賞

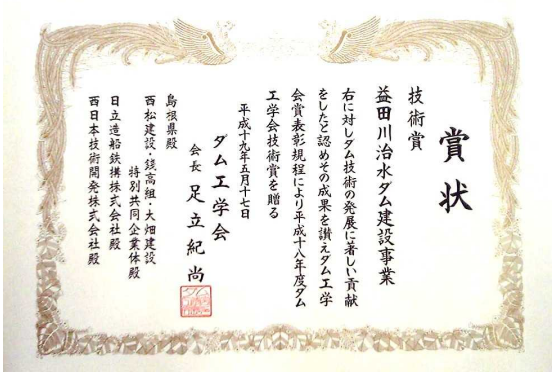
平成１８年３月末に完成し同年４月より管理を行っている益田川ダムは、常用洪水吐を河床に設置し、その放流特性のみで洪水調節を行う自然調節方式のダムであり、上流から流下してくる土砂を流水と一緒に下流へ排砂するとともに、益田川に生息する魚類もダム上流に遡上することが可能とした、全国的にも珍しい構造です。

常用洪水吐が河床部にあることにより、ダム地点で上下流とつながり魚類の遡上が可能となりました。また、洪水時には土砂も一緒に流下することで下流河川や海岸に土砂を供給することができます。





今回、この「益田川治水ダム建設事業」が、平成１９年５月１７日に開催された第１７回ダム工学会通常総会において、設計施工に携わった西松建設・錢高組・大畑建設特別共同企業体、日立造船鉄鋼株式会社、西日本技術開発株式会社を共同受賞者として、平成１８年度ダム工学会賞「技術賞」を受賞しました。



賞状

技術賞

益田川治水ダム建設事業

右に対しダム技術の発展に著しい貢献をしたと認めその成果を讃えダム工学会賞表彰規程により平成十八年度ダム工学会技術賞を贈る

平成十九年五月十七日

ダム工学会
会長 足立紀尚

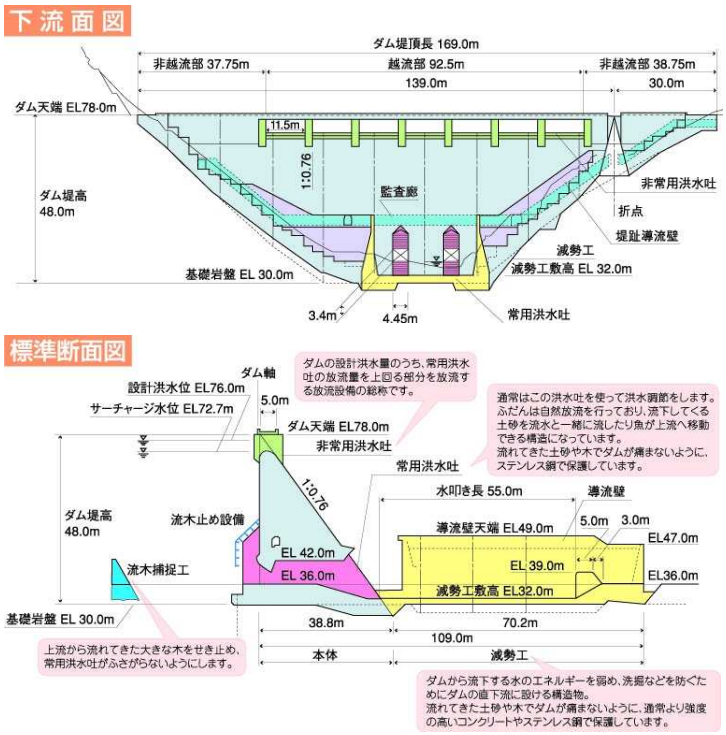
島根県殿
西松建設・錢高組・大畑建設特別共同企業体殿
日立造船鉄構株式会社殿
西日本技術開発株式会社殿

ダム工学会賞「技術賞」は、ダムの計画、設計、施工、または維持管理等に関して、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた画期的な事業を実施した個人または団体に対して授与されるもので、本年は全国で４事業が受賞しました。

（ダム工学会ホームページ http://www.jsde.jp/）

本ダムは、平常時に貯水池に水を貯めない国土交通省所管では全国初の「流水型ダム」です。このため、一般の方々の見学はもとより県外ダム事業関係者からの視察依頼が多数寄せられるなど全国的にも注目を集めています。

今後は、本ダムの有効性或いは今後のダム計画での活用を念頭に、貯水池内の植生状況の把握、また排砂機能の検証などのモニタリングを継続して行い、当ダムの適切な管理はもとより、後発ダムへの活用を図っていきたいと考えています。



写真上：ダム下流面
写真下：ダム上流面